

緊急地震速報 受信装置

取扱説明書



ホームページには、製品に関する詳しい情報が掲載されています。

『J コーポレーション』で検索

総発売元

緊急地震速報のリーディングカンパニー



株式会社 J コーポレーション

総合窓口 電話 0742-53-7833



本社 三重県津市住吉町 11-13 TEL 059-223-7774

目次

目次	2
◆ 第 1 章 安全上のご注意	
・ 安全にお使いいただくために	3
この取扱説明書の表記について	4
◆ 第 2 章 ご利用になる前に	
・ 緊急地震速報とは	12
・ 注意事項	12
・ 緊急地震速報の発信条件	13
・ 必要ネットワークについて	13
・ 震度と揺れ等の状況（概要）	14
・ 日ごろからの対策	15
・ 気象庁ホームページより津波警報の発表と解除についての説明	15
・ 実際に地震が発生した場合の行動要領	16
◆ 第 3 章 子機（DN-KOKI600）	17
◆ 第 4 章 ご注意	21

安全にお使いいただくために

本取扱説明書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本取扱説明書を熟読してください。特に「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。また、本取扱説明書は本製品を使用中いつでも、ご覧になれるよう大切に保管してください。

◆ 保証書について

1. 保証書は、必ず必要事項を記入し内容をお読みください。その後、大切に保管してください。
2. 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
3. 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無償で修理または交換いたします。
4. 保証期間内であっても、保証書の提示がない場合や天災あるいは無理な使用による故障の場合などには修理交換いたしかねますこと、ご了承ください。(詳しくは、別途付属保証書の保証規定をご覧ください。)

◆ 本製品の用途について

本製品は、一般事務用、家庭用などの一般用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する、重要な危険性を伴う用途を言います。

- 原子力施設における核反応制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療本機器など。

◆ 注意

1. 本製品は、家庭環境で使用することを目的としています。本製品をラジオやテレビ受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。
2. 本製品は、取扱説明書に従って正しく取り扱ってください。
3. 本製品には有寿命部品が含まれています。
4. 製品に使用しているアルミ電解コンデンサーは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。
5. 部品の交換は、当社の定める補修用性能部品単位での修理による交換となります。
(消耗品は、お客様ご自身で新品を購入し、交換していただきます)
6. 本製品の使用環境は、温度0~40℃(動作時) / -10~60℃(非動作時)・湿度10~80%RH(ただし、結露しないこと)です。
7. 本製品は、日本国内での使用を前提に製造されています。海外では使用できません。
8. 本製品の構成部品(プリント基板、液晶ディスプレイなど)には、微量の重金属(鉛、クロム、水銀)や化学物質(アンチモン、シアン)が含有されています。
9. 本製品の電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

この取扱説明書の表記について

◆ 電源プラグとコンセント形状の表記について

本製品に添付されているACアダプターの電源プラグは「平行2極プラグ」です。

本書では「電源プラグ」と表記しています。

接続先のコンセントには「平行2極プラグ（125V15A）用コンセント」をご利用ください。本書では「コンセント」と表記しています。

◆ 安全にお使いいただくための絵記号について

本取扱説明書では、いろいろな絵記号を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、ご利用のお客様自身や他の人々に加えられる恐れのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを表しています。

**警告**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを表しています。

**注意**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを表わしています。

また、危害の内容がどのようなものかを表わすために、前ページの絵記号と同時に次の記号を使っています。



⚠で表した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。その横には、具体的な警告内容が示されています。



⊘で表した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。その横には、具体的な禁止内容が示されています。



Ⓢで表した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。その横には、具体的な禁止内容が示されています。

◆ 異常や故障のとき



警告

本製品から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、すぐにACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、異常な現象がなくなったことを確認して、お問合せ窓口にご連絡ください。
異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。

本体の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐにACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、異常な現象がなくなったことを確認して、ご連絡ください。
異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。



ACアダプターの本体やケーブル、電源コード、電源プラグが傷ついている場合は使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

◆設置されるとき

**警告**

使用できる電源は交流100Vです。

それ以外の電圧では使用しないでください。

電圧の大きさにより内部が過熱したり、劣化して感電・火災の原因になります。



同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。

コードやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの本機器にも影響を及ぼします。



梱包に使用している袋類は、お子様の手の届くところに置かないでください。

口に入れたり、頭にかぶったりすると窒息の原因となります。



外部制御機器と接続される時は、本取扱説明書および外部制御機器の取扱説明書をよく読み、正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。

また、本体および外部制御機器が故障する原因となります。


注意


振動している場所や傾いた場所などの不安定な場所に置かないでください。

本製品が落下して、けがの原因となります。

本製品を移動する場合は、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
また、接続されたケーブルなども外してください。作業は足元に充分注意して行ってください。

ACアダプターの電源コードが傷つき、感電・火災の原因となったり、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

◆ご使用になるとき


警告


濡れた手でACアダプターの電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



ACアダプターの電源プラグにドライバーなどの金属を近づけないでください。

感電・火災の原因となります。



ACアダプターは、次のことに注意してお取り扱いください。
感電・火災もしくは発熱によるやけどの原因になることがあります。

- ・絶対に分解しないでください。
- ・浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所のそば、湿気の多い地下室、水泳プールのそばやほこりの多い場所で使用しないでください。
- ・水に濡らしたり、濡れた手で触れないでください。
- ・布団の上や中など熱がこもるような環境で使用したり、放置したりしないでください。
- ・上に物を置かないでください。
- ・必ず付属のコードセット(電源コード)を使ってください。
- ・他の機器に使用しないでください。



マニキュア、ペディキュアや除光液など揮発性の液体は、本機器の近くで使わないでください。

本機器の中に入って引火すると火災の原因となります。



浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機、水を使用する場所のそば、湿気の多い地下室、水泳プールのそばやほこりの多い場所では使用しないでください。

電気絶縁の低下によって感電・火災の原因となります。
本体内部にほこりがたまることによって、精密部品の冷却を妨げ、故障ややけどの原因となります。



本製品の上や周りに、花瓶・コップなど液体の入ったものを置かないでください。

水などの液体が本製品の内部に入って、感電・火災の原因となります。



コネクタなどの開口部から、本製品の内部に金属物や紙などの燃えやすいものを差し込んだり、入れたりしないでください。

感電・火災の原因となります。



取り外したキャップなどの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。

誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



雷が鳴り出したら、本体やケーブル類に触れないでください。
感電・火災の原因となります。

雷が鳴り出しそうなときは、ACアダプターやケーブル類を取り外し、雷が鳴り止むまで取り付けしないでください。



添付もしくは指定された物以外のACアダプターの電源コードを本製品に使ったり、添付のACアダプターや電源コードを他の製品に使ったりしないでください。

感電・火災の原因となります。



ACアダプター本体に電源コードをきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけるしないでください。

電源コードの芯線が露出したり脱線したりして、感電・火災の原因となります。



本製品をお客様ご自身で修理・分解・改造しないでください。

感電・火災の原因になります。修理や点検などが必要な場合は、ご購入された販売元にご連絡ください。



ACアダプターの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。

電源コードや電源プラグが傷つき、感電・火災の原因となります。

 **注意**

本製品の上に重いものを置かないでください。

故障・けがの原因となることがあります。



本製品を調理台や加湿器のそば、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となります。



本製品を直射日光が当たる場所、ストーブのような暖房器具のそばで使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となることがあります。また、破損や故障の原因となることがあります。



使用中の本体やACアダプターを布などで覆ったり、包んだりしないでください。

内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

◆ ご使用になるとき

 警告

ACアダプターや電源プラグはコンセントから時々抜いて、コンセントの接続部分およびACアダプターと電源コードの接続部分などのほこりやゴミを乾いた布でよく拭き取ってください。

ほこりがたまったままの状態で使用すると、感電・火災の原因になります。
電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因になります。

- ・電源プラグは、根元までしっかり差し込んでください。
- ・電源プラグは、ほこりや水滴が付着していないことを確認してから差し込んでください。付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってから差し込んでください。
- ・グラグラしないコンセントを使ってください。



本製品の各種端子には弊社または販売元が指定したケーブル、コネクタ以外の物は差し込んだり、挿入しないでください。

故障、感電・火災の原因となります。



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。
結露した状態で使用すると、発煙、感電・火災の原因となります。
使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。



液晶ディスプレイ部の破損

液晶ディスプレイ部はガラスでできています。液晶ディスプレイ部が破損したとき、ガラスの破片には直接触れないでください。けがをするおそれがあります。



目的以外の使用。

踏み台やブックエンドなど、本来の目的以外に使用しないでください。
壊れたり、倒したりし、けがや故障の原因となります。



信号ケーブルについて

- ・ケーブルは足などに引っかけないように、配線してください。
- ・足を引っかけると、けがや接続機器の故障の原因となります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。
- ・ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因となります。



電波障害について

- ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響をおよぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合は、次のようにしてください。
- ・テレビやラジオなどからできるだけ離す。
 - ・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える。



心臓ペースメーカーを装着時の使用

- 心臓ペースメーカーの装着部分から 22cm 以上離してご使用ください。電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

◆その他



警告



本製品の廃棄については、一般廃棄物の扱いとなります。各地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

本製品は「廃棄物の処理および清掃に関する法律」の規則を受けます。一般のゴミと一緒に火中に投げると破裂のおそれがあります。

緊急地震速報とは

1. 地震の揺れの仕組み
地震が発生するとP波(初期微動)およびS波(主要動)と呼ばれる2つの波が地中を伝播します。
この波の伝播速度はP波のほうがS波より速いため、初めにP波が伝わり、それから「主要動」と呼ばれる大きな揺れをもたらすS波が伝わってきます。
2. 「緊急地震速報(予報)」システム
日本全国にある約1,000カ所の地震計を利用し、地震発生時には震源に近い観測点(地震計)でこのP波をとらえます。そのデータから直ちに震源(経度・緯度)、地震の規模(マグニチュード)を推定し、これを情報として迅速に利用者に提供するシステムを「緊急地震速報」と言います。
3. 緊急地震速報(予報)報知
本製品はこの情報を受信し、設置している地点の各種情報(経度、緯度、地盤増幅度※1)をもとに実際に起こる地震の大きさ(震度)と到達までの時間(猶予時間)を予測演算し予報を行います。
※1 地盤増幅度 … 表層地盤の構造(硬さ)をもとに揺れの伝わる割合を表わすものです。

注意事項

緊急地震速報(予報)の原理的限界等のため、情報のご利用に当っては、次のようなおそれがありますので、事前の十分なお理解が不可欠です。予めご了承下さい。

1. 震度、到達猶予時間などの予測演算数値には誤差があります。
2. 緊急地震速報の報知から大きな揺れが到達するまでの時間は、長くても十数秒から数十秒と極めて短い時間です。
3. 震源に近いところでは地震到達までに緊急地震速報が間に合わないことがあります。(直下型)
4. ごく短い時間のデータだけを使った情報であることから、予測結果に誤差を伴う場合があります。(報知しない場合があります。)
5. 震源の深さが150km以上深い場合(深発地震)は予測結果に大きな誤差を含む場合があります。(報知しない場合があります。)
6. 短い間隔で複数の地震が発生した場合、震源の特定が困難となり予測結果に大きな誤差を含んだり予測できない事があります。(複数地震の同時発生、報知しない場合があります。)
7. 落雷、事故、本機器の故障等により、誤報を発生する可能性があります。
8. 気象庁が実施する訓練報に関してはお客様自身が訓練の内容および配信日時等を確認の上対応してください。
9. 緊急地震速報は、サービス品質および、正確性(地震発生時に必ず情報が伝達および、報知されること、情報の伝達が地震の到達の前に必ず間に合うこと、誤報、誤差が生じないことを含む)について一切保証されません。
10. 緊急地震速報について+分理解し、日頃から、地震を想定した行動マニュアルの整備や、定期的な避難・防災訓練の実施に努めてください。

■ 緊急地震速報の発信条件

- 気象庁の多機能型地震計設置のいずれかの観測点において、P波またはS波の振幅が100ガル以上となった場合。(※1)
- 解析の結果、震源・マグニチュード・各地の予測震度が求まり、そのマグニチュードが3.5以上、または最大予測震度が3以上である場合。なお、この基準は変更する場合があります。

(※1) 1点の観測点のみの処理結果によって緊急地震速報を発信した後、所定の時間が経過しても2観測点目の処理が行われなかった場合はノイズと判断し、発表から数秒～10数秒程度でキャンセル報(予報の取消し)を発信します。島嶼部など観測点密度の低い地域では、実際の地震であってもキャンセル報を発信する場合があります。なお、この場合には、キャンセル報の発信までに30秒程度がかかることがあります。

■ 必要ネットワークについて

接続にあたって必要となるネットワーク環境、およびネットワーク機器類(ルーター/スイッチ/HUB等)はお客様にてご用意ください。

- ・インターネット回線：光・ADSL・CATV
- ・LAN端子：RJ-45 カテゴリー5以上 1ポート
- ・ルーター：必要
- ・インターネットプロトコル：IPv4 自動IP取得の場合は、DHCPサーバーが必要
- ・セキュリティーポート・ポリシー：TCP：9001 UDP：53 LAN⇒WAN開放
- ・通信速度：接続ポートより、ストレスなくインターネットが閲覧出来るのであれば安全に利用出来ると判断致します。

※受信端末用に、専用回線を準備する場合には、プロバイダー契約をお忘れにならないよう、ご注意ください。



本製品は、お客様の地震による被害を極力少なくするためのものであり、お客様の財産や命を守るためのものではありません。実際に地震が発生した時のために、避難経路などを確認し、日頃から地震対策を十分に行ってください。



緊急地震速報の受信は、お客様自身の自己責任でなされるものであり、弊社および販売元は、使用によって発生したいかなる損害(速報内容の誤報により生じた損害を含み、直接損害・間接損害の別を問わない)やその修理費等に関して、一切の責任を負いません。

震度と揺れ等の状況（概要）

震度 0	人は揺れを感じない。
震度 1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
震度 2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。
震度 3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
震度 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 殆どの人が驚く。 ・ 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ・ 座りの悪い置物が、倒れることがある。
震度 5 弱	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ・ 棚にある食器類や本が落ちる事がある。 ・ 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
震度 5 強	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物につかまらなると歩くことが難しい。 ・ 棚にある食器類や本が落ちる事が多くなる。 ・ 固定していない家具が倒れることがある。 ・ 補強されていないブロック塀が崩れることがある。
震度 6 弱	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立っていることが困難になる。 ・ 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ・ 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ・ 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある、倒れるものもある。
震度 6 強	<ul style="list-style-type: none"> ・ はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ・ 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ・ 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 ・ 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。
震度 7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ・ 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ・ 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

■ 日ごろからの対策

地震は、いつどのような規模で起こるか分かりません。

せっかくの緊急地震速報も、事前の準備ができていなければ利用価値が半減してしまいますので以下を参考に、お客様自身で事前の準備を十分に行ってください。

1. 家具が倒れたり、上にあるものが落ちたりすると、けがをすするばかりでなく、避難時の障害にもなります。市販の固定器具などを利用し、家具の固定・転倒防止をしておきましょう。また、棚の上のものは容易に落下しないようにしておきましょう。
2. 寝室など常時いるような場所は、倒れやすいものを置かず、避難経路を確認しておき、非常時はすぐに避難できるようにしておきましょう。また、近くに靴やスリッパを常備しておきましょう。
3. 非常時の用意
消火器・ハンマー等、避難経路の確保に必要なものは、すぐに取り出せる所にひとまとめにしておきましょう。
4. 非常時の持ち出し品の用意
食料品関係・貴重品・衣類・靴・防災用品・照明器具・医療用品・携帯電話・簡易充電器なども、すぐに持ち出せるようにまとめておきましょう。
5. 家族で話し合いをして、非常時の避難経路や非難場所を決めておきましょう。

■ 気象庁ホームページより津波警報の発表と解除についての説明

<迅速に発表する津波警報・注意報とその限界について>

気象庁の津波警報・注意報は、地震発生後数分程度で得られる地震の発生位置とマグニチュードから津波を予測して発表します。いっぽう、同じ震源、同じマグニチュードであっても、断層の傾きや断層運動の方向などにより、津波の規模が大きく変わりますが、断層に関する詳細は、10分間程度以上の地震波を分析して初めて分かるものなのです。そのため、気象庁では、津波を発生させやすい傾斜角 45° の逆断層を想定した津波の数値シミュレーションを多数行い、その結果をデータベース化しておき、震源位置とマグニチュードからデータベースを検索して、津波警報・注意報を発表することとしています。

<逐次得られる観測データによる津波警報・注意報の切り替えについて>

気象庁では、津波警報・注意報を発表した後も分析を続け、断層についての詳細が分かった時点で津波を予測し直します。その結果、最初の警報・注意報よりも津波が小さい、あるいは発生しない可能性が高いことが確認できれば、警報・注意報の切り替えや解除を行います（地震のメカニズムを活用した、津波警報・注意報の切替・解除）。また、実際に津波が観測された場合など、逐次得られる観測データに基づいて、津波警報・注意報の更新を行います。

■ 実際に地震が発生した場合の行動要領

◆ 緊急地震速報の受信時、および地震発生時

まずは身の安全の確保	周りの人に地震が来ることを知らせながら、倒れやすい家具などから離れ、丈夫なテーブル・机の下に隠れてください。
火元の始末 (そばに居る場合)	ガスコンロなどの火を止める。また、電熱ヒーターなどの熱源となる本機器の電源も切ってください。火元（暖房・調理器具など）から離れている場合は、無理に近づくとかえって危険が従う（熱くなった油やお湯などをかぶって火傷をする）ので、揺れが収まってから消すようにしましょう。

◆ 地震発生後（揺れが収まったら）

避難経路の確保	避難の開始	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスの元栓を閉め、ブレーカーも切ってください。 ・家に避難先や安否情報をメモしたものを残していくようにしてください。 ・避難は、必ず徒歩で行い、車などの使用を避けてください。 ・割れたガラスなどに注意してください。また、漏電・ガス漏れにも注意してください。
	火の始末	火が出ているのであれば、すぐに初期消火してください。一人で手に負えないようであれば、すぐに近所に協力を求めるようにしてください。

◆ 正しい情報収集と余震・津波への対応

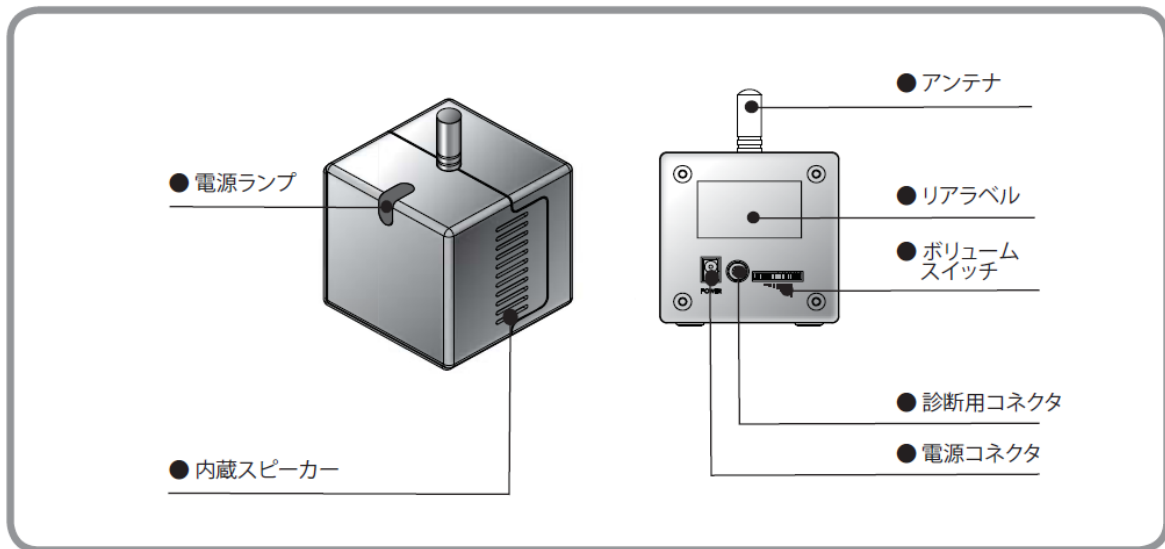
正しい情報収集	デマ情報に惑わされず、テレビ・ラジオ等で正しい情報を得て、的確に行動するようにしてください。
余震に注意	比較的大きな地震が発生すると、その近くで再び地震が発生します。この地震のことを「余震」と言います。大きな地震が収まったからといって、倒れやすいもののそばに近寄ったりしないでください。
津波に注意	震源が海底・海岸沿いの場合、津波が発生する可能性があります。海岸に近い場所にいる場合は、揺れが収まった後にできるだけ高い場所（高台や鉄筋の建物の4階以上のフロアなど）に避難して下さい。テレビやラジオの情報に注視して的確に行動して下さい。予想を超える大きな津波が来る場合があります。

オプションサウンドユニット名称 (型番 : DN-KOKI600)

このオプション品を使用することにより、本体から離れている場所 (部屋) でも予報を聞くことができます。(一台の DN-SH600J に対して接続できる子機の数に制限はありません)

※ サウンドユニットはオプションです。

詳しい情報はご購入された販売店へお問い合わせください。親機のRF出力が「ON」に設定されている必要があります。電波到達距離は、直線距離が目安 30 mです。設定環境によって短くなる場合があります。



- 電源ランプ
AC アダプターからの通電により点灯します。
また DN-SH600J の ID 検出中には遅く、発報時に早く点滅します。
- アンテナ
DN-SH600J からの信号を受信します。
- ボリュームスイッチ
本製品のボリュームの調整をします。
- リアラベル
本製品の型番などが記載されています。
- 内蔵スピーカー (左右 x 各1)
本製品の操作ボタンの操作音や音声を発報します。
- 電源コネクタ
本製品専用の AC アダプタを接続します。
- 診断用コネクタ
本製品の診断のための端子です。(通常は使用しません。)
(イヤフォン等を挿入しないでください。故障の原因になることがあります。)

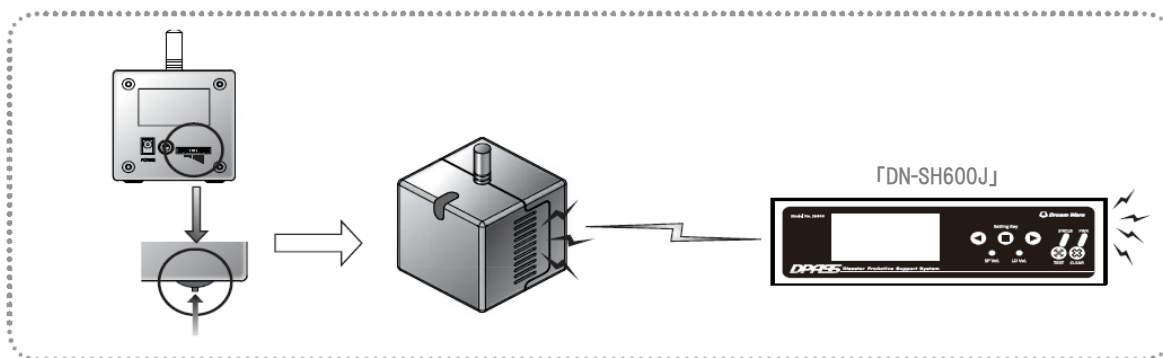
3 子機 (DN-KOKI600)

DN-SH600J ID 登録及び操作方法

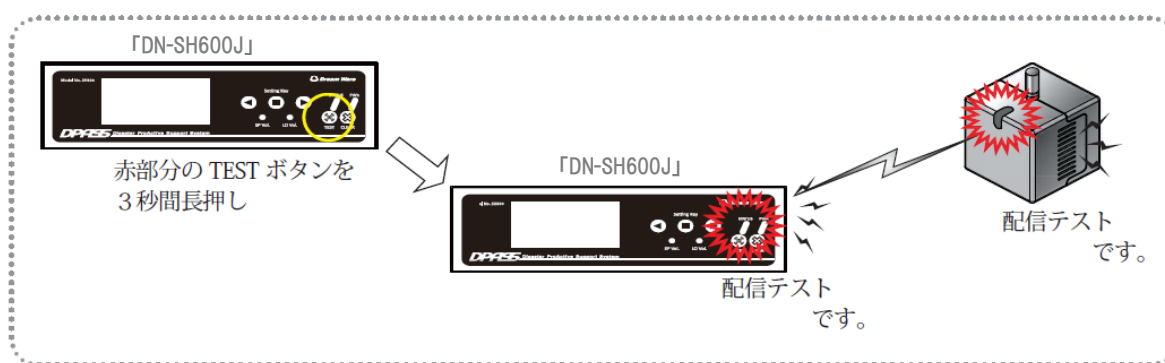
◆ DN-SH600J ID 登録

本製品は、最初の電源投入時、自動的に周辺の DN-SH600J (以下、親機) を検出して ID 登録します。初回接続時に自動登録ができなかった場合や不具合などで本機器の交換を行った場合は、下記の手順に従い ID を再登録させてご使用ください。

1. 親機 が正常動作し、電源ランプが点灯していることを確認します。
2. 正常動作している 親機 のすぐそば (30 ~ 50cm 以内) で、本製品の電源を入れ電源ランプが点灯状態になることを確認します。
3. 本製品のボリュームスイッチをまっすぐに 5 秒間押し続けてください。メロディと共に電源ランプが点滅に変わり、認識している ID をクリアし 親機 の検出状態になります。この点滅状態の時に、本製品は自動的に一番近くで稼働している 親機 を検出し自動 ID 登録を行います。
※点滅している間は、親機 を検出しておりますので 親機 との距離を離さないでください。
※作業周辺に 親機 が複数台ある場合、該当以外の 親機 は一度電源を切ってください。
4. 登録が完了すると、電源ランプが点灯に変わります。
※設置周辺に電波影響を及ぼす電子本機器がありますと登録が出来ない場合がございます。その際は 親機 の画面に DN-KOKI600 のアンテナの先端部分を最大近づけて、再度 3. から作業を行ってください。
5. 親機 から「テスト発報」を行い連動して報知することを確認してください。(P.70 テスト発報参照)
6. 本製品をご希望の場所に設置して、再度 親機 から「テスト発報」を行い、正常動作を確認してください。



● DN-SH600J からのテスト発報方法 (参考)



◆ 操作方法&ボリュームの設定

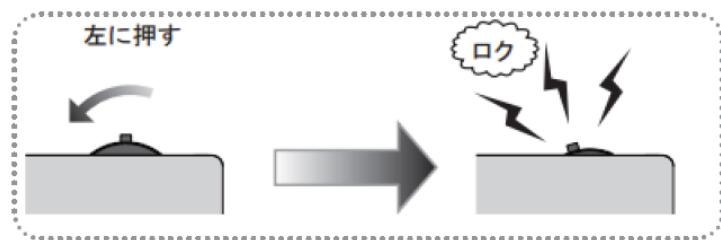
● 現在ボリュームの確認

ボリュームスイッチをまっすぐに軽く押してください。



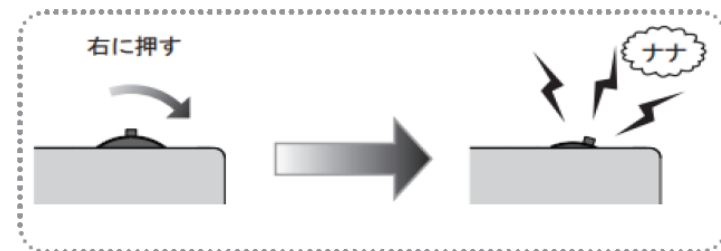
● ボリュームを下げる

ボリュームスイッチを左に1回軽く押してください。



● ボリュームを上げる

ボリュームスイッチを右に1回軽く押してください。



・型番	: DN-KOKI600
・電源電圧	: DC6V AC アダプタ使用 (出力: DC6V-800mA)
・定格入力	: AC100V (50/60Hz) DC6V-800mA
・待機消費電力	: AC 待受け時 0.9W、最大 2.8W
・内臓スピーカー出力	: 500mW x 2 (参照値: レベル 10 の時 86dB/ 距離 1m)
・寸法	: W60mm x H60mm x D60mm (突起部除く)
・重量	: 111g (本体のみ)
・材質	: 難燃 ABS
・温湿度条件	: 温度 0 ~ 60°C (40°C 93% RH 以下、結露しないこと)
・SH600-J との通信方式	: FM 無線方式
・使用周波数帯	: 449.7125 ~ 449.8750MHz
・転送速度	: 2.4Kbps
・出力レベル	: 1mW 以下
・電波到達可能距離	: 室内約 30m (参考値)・・・※

※電波到達可能距離は参考値です。ご使用環境において周辺電子本機器の状態によっては、電波の到達に支障が生じる場合があります。DN-KOKI600からの信号を受信できない場合がございます。弊社及び販売元は、これによって発生したいかなる損害に関して、一切の責任を負いません。

■ 音声内容

◆ 緊急地震速報受信音声

表現	開始音声及び繰り返し音声	最終音声
詳細	「地震 _ 震度● _ △秒後」	カウント ダウン
曖昧 1	「地震 _ ◆ _ ◎」 + 「★オリジナル報知音」	カウント ダウン
曖昧 2	「地震 _ ◎」 + 「★オリジナル報知音」	--

●：気象庁震度階級の「震度 1～7」	△：猶予時間（※最大読み上げ音声 50 秒）
◆：震度階級あいまい表現 ・震度 1～3 の場合「小さな揺れが」 ・震度 4～5 強の場合「物が倒れるぐらいの揺れが」 ・震度 6 弱～7 の場合「命にかかわるほどのゆれが」	◎：猶予時間あいまい表現 ・0～19 秒の場合「すぐに来ます」 ・20～29 秒の場合「まもなく来ます」 ・30 秒以上の場合「もうまもなく来ます」
★：「オリジナル報知音」 ・震度 1～3 の場合「ビ」 ・震度 4～5 強の場合「ビ・ビ」 ・震度 6 弱～7 の場合「ビ・ビ・ビ」	津波 津波警報、大津波警報、津波注意報

- ① 地震受信：DN-KOKI600 の表現に合わせて音声を出します。
DN-KOKI600 の設定が詳細ですと DN-KOKI600 も詳細表現で音声を出します。
- ② 訓練報及びテスト動作：全ての冒頭に「地震」の代わりに「配信テストです」を挿入します。
- ③ キャンセル報受信：「緊急地震速報を解除します。」
- ④ 津波受信：「津波警報発令」 / 「大津波警報発令」 / 「津波注意報発令」
3 つ津波情報から受信した情報をそのまま繰り返して音声を出します。
繰り返し音声は津波解除又は DN-KOKI600 からの CLEAR されるまで続けます。
- ⑤ 津波解除 / 津波取消：「発令・発報を解除します。」 / 「先の発令・発報は誤報です。」

■ 本書についての注意

1. 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
2. 本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一不備な点や誤りなど、お気づきの点がありましたらご連絡ください。
3. 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、弊社に無断で使用できません。
4. 本製品の仕様、価格、外見などは予告なく変更することがあります。
5. 本製品は、日本国内での使用を前提に設計したものです。海外では使用しないでください。本書に記載されている社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

総発売元

緊急地震速報のリーディングカンパニー
株式会社 **J** コーポレーション
総合窓口 電話 0742-53-7833



本社 三重県津市住吉町 11-13 TEL 059-223-7774